

# 平成28年度 事業報告

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館は、横浜開港100年記念事業として、神奈川県、横浜市及び関係団体の協力のもとに、生糸及び絹業を中心とする日本の産業貿易並びに観光事業の振興発展を図ることを目的に設立され、その目的達成のため昭和34年3月12日にシルクセンター国際貿易観光会館を開館し、長年会館運営に携わってまいりました。

平成26年4月の一般財団法人への移行後も公益目的支出計画に基づく「実施事業」と「その他事業」の区分により、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要の促進、国際貿易及び観光の振興等の事業を積極的に展開しました。

平成28年度における各事業の実施状況は、次のとおりです。

## I 実施事業

公益目的支出計画の実施のため、公益事業として次の事業を行いました。

### 1 博物館事業（継続事業）

魅力ある博物館づくりをめざし常設展示をはじめ特別展・企画展示等の充実を図り、学校教育活動における総合的な学習への協力等を行い、絹知識の普及と需要の促進に寄与するよう努めました。

#### (1) 普及事業

##### ア 常設展示事業

絹知識の普及と需要の促進を図ることを目的に、学校教育活動の場や生涯学習の場として活用できるわかりやすい展示、また絹による服飾工芸品の鑑賞の場として、魅力ある展示を行うとともに、テーマごとの展示や講習会等の充実に努めました。

##### (ア) 実演会・講習会の開催

「手作り真綿」、「真綿からの太糸作り」、「手紬糸作り」の実演や、「まゆ人形作り（子ども向け）」、「くみひも作り体験」、「スカーフ染め体験」等の講習会を開催し、繭、生糸、真綿、絹への理解を深め絹需要の促進に努めました。

##### イ 特別展示事業

##### (ア) 春の企画展

「キモノの美 一人間国宝田島比呂子の友禅ー」

[会 期] 平成28年4月23日(土)～6月12日(日)

友禅の重要無形文化財保持者であった田島比呂子のキモノ作りの過程をスケッチ、取材写真、下図、彩色大下図、試し染めなどを交えて紹

介しました。

(イ) 夏の企画

「かいこ教室」

[期 間] 平成28年7月30日(土)～8月14日(日)

夏休みに、神奈川県内及び近隣地域の小学生等を対象に、蚕の観察や、まゆ人形作り、ランプシェード作り等を通して、蚕のふしぎ、絹の特性等を学ぶ教室を開催し、理科教育等への支援にも努めました。

(ウ) 秋の特別展

「第24回全国染織作品展」

[会 期] 平成28年10月8日(土)～11月13日(日)

絹を用いた染織作品を全国から公募し、専門家による審査のうえ、入選作品を一堂に展覧しました。本展は、次代を担う新進作家の育成及び染織技術の向上と服飾文化の発展を図るとともに、絹の需要増進に寄与することを目的として、隔年で開催しています。

(エ) 冬の企画

「シルキーウインターフェスティバル」

[期 間] 平成28年12月3日(土)～平成29年1月9日(月)

小学生や幼稚園児などが作成した観察記録やまゆ人形等を展示する「たのしいかいこの発表会」と併せて、クリスマスイベントとしての「シルキークリスマス」等を開催し、子どもたちを中心に幅広い世代の方々のシルクへの理解促進に努めました。併せて、シルクに関わる産業の振興にもつながるよう努めました。

ウ 学習支援事業

(ア) 蚕種配布事業

神奈川県内及び近隣地域の小学校、幼稚園等へ約600セットの蚕の卵(蚕種)を配布するとともに、飼育方法や観察の仕方、糸の繰り方等の講習会を開催しました。これと併せて小学校からの問い合わせや見学等にも対応し、理科教育等への支援を図りました。

蚕種配布及び講習会；平成28年5月19日(木)・20日(金)・21日(土)

(イ) 博物館実習生の受入れ

博物館学芸員の資格を取得するため、博物館学を履修している大学生の博物館実習を受け入れました。

エ 開館60周年に向けた取組み

開館60周年となる平成31(2019)年度を目途に博物館所蔵品目録を更新するため、所蔵品、図書類の整理・データベース化等を進めました。

## (2) 広報事業

小・中学校をはじめ、服飾関係学校、ホテル、旅行会社や新聞、雑誌、報道機関等への広報、ポスター掲示などのPR活動を行うとともに、インターネット等を積極的に利用して来館者の増加を図り、絹知識の普及と需要増進に寄与するよう努めました。

## 2 シルク等普及推進事業（継続事業）

神奈川県 の 地場産業であるシルク産業の振興を支援するための宣伝、普及、販売促進に取り組むとともに、地域社会活性化に寄与するため、地域住民の公益的活動等の支援に努めました。

### (1) シルク等普及活動事業

#### ア シルキーウインターフェスティバルの開催（再掲）

特に若い世代を含めた多くの方々にシルクセンターに来館いただき、シルクの魅力等について広く理解していただくため、平成28年12月3日から平成29年1月9日まで、シルクセンター国際貿易観光会館の施設全体で開催しました。

#### イ かながわシルクフェア

神奈川県 の 伝統産業であるシルク製品の普及・啓発及び販路拡大等を図るとともに、シルク製品に関わりのある団体及び神奈川県と共同でシルク貿易の街・横浜の繁栄を支えてきた生糸、シルクの魅力を周知する「かながわシルクフェア」を開催しました。

#### ウ 横浜絹フェスティバル

平成28年4月22日から5月30日まで、繊維関係団体、百貨店、ホテル等と連携して「横浜絹フェスティバル」の開催に参加した。高島屋横浜店でのパネル展示「絹の街、横浜～写真と絵で探る歴史と魅力～」は、シルク博物館の主催として位置づけ、横浜開港資料館の協力のもと、開催しました。

### (2) 施設を活用しての普及活動支援事業

#### ア シルクミュージアムショップの運営支援

横浜のシルク産業を支援する取組みとして、販売・宣伝を行うためミュージアムショップスペースを横浜繊維振興会(YTA)に引続き貸与しました。

#### イ 催事場による支援

県民・市民の文化芸術活動の振興、地域社会への横浜のシルク産業の振興等を図る活動を支援するため「催事場」の貸与を行いました。

## II その他事業

公益目的支出計画の安定的な実施のため、収益事業として次の事業を行いました。

### 1 部室賃貸事業

ホームページを活用したPRなどによりテナントの誘致を積極的に展開するとともに、良質な部室の提供や執務環境の整備に努め、入居率の一層の向上をめざした結果として、92.1%の入居率を達成しました。

当会館は、建築後50年以上が経過しており、建物及び諸設備等の維持管理が大変重要な課題になっています。本年度においても会館の財務状況を踏まえつつ、会館の耐震補強工事等の実施により、建物設備の安全の確保や長期寿命化を図るとともに、良好な執務環境の整備に努めました。

### 2 附帯事業

入館者の利便に供するため、立体機械式車庫並びに平面駐車場の適切な管理運営に努めるとともに、正面玄関前平面駐車場はタイムズ24株式会社に運営委託しました。